

連絡先：自動車局 審査・リコール課 リコール監理室  
 TEL：03-5253-8111 内線42361  
 アドレス： <http://www.mlit.go.jp>

### リコール届出一覧表

リコール届出日：令和4年6月14日

リコール届出番号	5165	リコール開始日	令和4年6月15日
届出者の氏名又は名称	ヤマハ発動機株式会社 代表取締役社長 日高 祥博 <div style="float: right; border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;">           問い合わせ先：カスタムコミュニケーションセンター            0120-090-819         </div>		
不具合の部位（部品名）	原動機（エンジンコントロールユニット）		
基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	① エンジンコントロールユニット（ECU）のプログラムが不適切なため、スロットルをわずかに開けた状態を保持すると、ECUがスロットルは閉じていると認識して燃料を減らし、燃焼室内に吸入される混合気が薄くなる。その状態からスロットルをゆっくり開けると、さらに混合気が薄くなり、最悪の場合、エンストするおそれがある。 ② エンジンコントロールユニットのプログラムが不適切なため、スロットルをわずかに開けた状態を保持すると、過度に燃料を増量して燃焼室内に吸入される混合気が濃くなるので、薄くしようと燃料を減らす制御が入る。その状態からスロットルを閉じると、燃料を増量する制御は停止するが、燃料を減らす制御は継続するため、混合気が薄くなり、最悪の場合、エンストするおそれがある。 ③ エンジンコントロールユニットのプログラムが不適切なため、暖機途中にアイドリング状態を継続すると、排出ガスをクリーンにするために燃料を減らす制御が入り、燃焼室内に吸入される混合気が薄くなる。そのため、エンジン回転が不安定になり、最悪の場合、エンストするおそれがある。		
改善措置の内容	全車両、エンジンコントロールユニットのプログラムを対策プログラムに書き換える。		
不具合件数	① 1件 ② 1件 ③ 5件	事故の有無	なし
発見の動機	市場からの情報による。		
自動車使用者及び自動車特定整備事業者等に周知させるための措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用者：ダイレクトメールで通知する。</li> <li>・自動車特定整備事業者等：日整連発行の機関誌に掲載する。</li> <li>・弊社のインターネットホームページに掲載する。</li> </ul>		

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号（シリアル番号）の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
ヤマハ	2BK-DG31J	「SEROW XT250」	DG31J-000013～DG31J-013124 平成30年8月9日～令和2年7月31日	13,065台	
	2BK-DG32J	「tricker XG250」	DG32J-000011～DG32J-002034 平成30年8月23日～令和2年7月22日	2,024台	
	(計2型式)	(計2車種)	(製作期間の全体の範囲) 平成30年8月9日～令和2年7月31日	(計15,089台)	

(備考) リコール対象車の車台番号の範囲には、対象とならない車両も含まれています。

本届出は、令和元年10月15日付け「届出番号4580」にてリコールの届出を行ったものであるが、対策仕様が不適切であったことがわかったため、再度リコールを実施するものである。